

☆障害者支援 巡回訪問サービス提言へ 厚労省部会

毎日新聞 2015年12月14日

<http://mainichi.jp/articles/20151215/k00/00m/040/077000c>

＞ 障害者総合支援法の改正を議論する厚生労働省の専門部会は14日、1人暮らしの障害者を支援する巡回訪問などの新たな障害福祉サービスを設けることを提言する報告書をまとめた。厚労省は来年の通常国会に提出する改正法案に盛り込む方針。

知的障害や精神障害がある人が家族と離れて暮らす場合、これまでは支援者の手を借りながら数人で共同生活するグループホームを選択するのが一般的だった。しかし、軽度の障害者の中には1人暮らしを希望する人が一定数いることから、部会は巡回訪問で健康・金銭の管理や対人関係などの相談に応じるサービスを新設し、1人暮らしを支援することを求めた。

グループホームには今年7月現在、全国で約10万人が入所しているが、3年後には更に約2万人の入所希望が見込まれている。報告書は重度障害者の入所に対応できる態勢を整えることも求めた。

また、重度の肢体不自由者たちが利用する障害福祉サービスの重度訪問介護を、入院中も利用できるように改める。入院中は看護師の介助があることから、障害福祉サービスとしてヘルパーの利用は認められなかった。しかし、実態として家族が常時介護しており、多くの障害者団体がサービスの適用を求めている。

一方、65歳になるとこれまで利用していた障害福祉サービスが原則として1割負担の介護保険サービスに切り替わる問題について、部会は「さらに検討すべきだ」として結論は出さなかった。

障害福祉サービスは介護保険と同様、利用額の1割負担があるが、障害が重いほど必要なサービスが増えて負担が増すことになるため障害者から批判が相次ぎ、2010年に低所得者は無料となった。今年3月現在、利用者の93%が無料になっている。

しかし、65歳になると介護保険に切り替わるため、多くの障害者は自己負担が発生する。報告書は「障害福祉制度と介護保険制度との関係や、長期的な財源確保の方策を含めた今後のあり方を議論すべきだ」と指摘した。

…などと伝えています。

☆医療的ケアが必要な子どもへの支援強化で法改正へ

NHKニュース 科学・医療 12月14日 （動画です）

<http://www3.nhk.or.jp/news/html/20151214/k10010340881000.html>

＞ たんの吸引など医療的なケアが必要な子どもが増えるなか、厚生労働省は必要な法律を改正し、こうした子どもや家族への支援を強化する方針を決めました。

14日は厚生労働省の専門家会議が開かれ、障害者を支援する法律の見直し案がまとまりました。この中では、たんの吸引など日常的に医療的なケアが必要な「医療的ケア児」が増えていることから、子どもたちが福祉サービスを利用しやすくなるよう新たな仕組みを作るべきだとしています。

また、必要な支援につなげるため相談窓口を充実させることや、「医療的ケア児」に対応できる専

門の医師や看護師などの人材の育成も進めるとしています。

文部科学省によりますと、全国の小中学校、それに特別支援学校で、医療的ケアを必要としている子どもは昨年度は8750人で、この8年間でおよそ3000人増加しています。

背景には高齢出産の増加や、医療技術の進歩で命を救える子どもが増えていることがあると指摘されていますが、医療的ケア児を支えるための福祉サービスは少なく、家族に重い負担がのしかかっているのが現状です。

厚生労働省は専門家会議の議論を踏まえ、必要な法律の改正案を来年の通常国会に提出することになっています。

家族からは支援求める声

「医療的ケア児」の家族からは子どもたちを一時的に受け入れる施設の整備など支援を求める声が上がっています。

川崎市に住む村松恵さん（38）は夫と2歳11か月になる長男の一楽さんと3人で暮らしています。一楽くんは呼吸をしにくかったり、物を飲み込みにくかったりする症状がある難病で、生まれてすぐ気管を切開する手術を受けました。生後3か月で退院してからは母親の恵さんが一楽くんにつきっきりで、たんの吸引や鼻から通した管から栄養を入れるなど医療的なケアを行ってきました。たんの吸引は多いときは1日に100回以上に上り、まとまった睡眠を取れない時もあったといいます。医療保険を使って週2日、訪問看護師に来てもらい、一楽くんの入浴や、たんの吸引を手伝ってもらっていますが、サービスが使えるのは1日に最大で1時間半だけです。

恵さんは「昼も夜も医療的なケアが必要なため家族も倒れてしまう。子どもを一時的に受け入れる施設の整備など医療的ケア児と家族を支援するしくみが必要だ」と話しています。

自宅に戻ったあとの支援が課題

医療的なケアが必要な子どもが増えるなか、病院から自宅に戻ったあとの支援が課題になっています。

埼玉医科大学総合医療センターのNICU＝新生児集中治療室には心臓や呼吸器などの病気の子どもの51人が入院しています。この病院ではNICUに入院する子どもは年々増えていて、去年はおおよそ820人と、この3年間で2倍以上に上っているということです。多くの子どもは退院したあとも、人工呼吸器や鼻から通した管を使った栄養補給などが必要ですが、利用できる福祉サービスは少なく親に重い負担がのしかかっているのが現状です。

埼玉医科大学総合医療センター総合周産期母子医療センターの田村正徳センター長は「医療的ケア児は肺炎になった場合などに命取りになることもある。NICUを出たあと、こうした赤ちゃんを受け入れてくれる施設もなく、支援を充実させることが大きな課題だ」と話しています。

…などと伝えています。

……12／14 22：00現在のWEB報道などから紹介します。

もし明日以降別のWEB報道などあれば追記します。（医ケアネット事務局：N）